

石川小学校区 保幼小連携に関する研究

水戸市立石川小学校

わくわくの森保育園

水戸市立石川認定こども園

目指す幼児・児童像

石川小学校	◇明るく元気な子 ◇思いやりのある子 ◇進んで働く子	◇よく考える子 ◇きまりを守る子
わくわくの森保育園	◇自主性を育てる ◇友達を大切にする ◇保護者と保育者が協力して子どもを育てる ◇きまりを守れる子どもに	◇健康な子どもに ◇創造性を育てる
石川認定こども園	◇生き生きとした元気な子供 ◇思いやりのある心豊かな子供 ◇自分のことが自分でできる子供	

研究テーマ

コロナ禍で見えてきた保幼小間の交流の在り方
—つながりを大事にした連携・接続を目指して—

1 主題設定の理由

本研究一年目となる昨年度は、コロナ禍による感染症の懸念が残る中で、オンラインを活用した交流を行った。その中で、小学生と交流ができたことはもちろん、保育園・認定こども園の幼児同士で横のつながりができたことで、「同じ小学校に行く友達がいる！」と喜んだり、小学校入学後に「あの時のお友達だ！」と仲良くなったり、交流したときの教師を見つけて安心したりする姿があったことを知り、取組を通して「つながり」の大切さを感じた。

そこで本年度は、幼児同士のつながり、小学生や小学校生活とのつながり、職員同士のつながりなど、「つながり」を大事にした連携・接続とそれによる幼児・児童の育ちや、イベント型ではなく生活の一部として継続的に取り組める交流方法について考えていくため、本研究主題を設定した。

2 研究のねらい

- (1) 交流活動や相互参観を通して、幼児・児童・職員が関わりをもつことで、相互理解と円滑な接続につなげる。
- (2) 交流事業の見直しや工夫を図り、持続可能な連携体制・組織づくりを目指す。

3 具体的な取組内容

- (1) 一年次の主な取組
 - 研究組織づくり
 - 研究計画の作成・実践
 - 実践の共有・考察
 - 目指す幼児・児童像の共通理解

(2) 二年次の主な取組

◎…【参考資料 8】

月 日	内 容
5月～ 6月～	○ 保幼小連携・接続に関する研究協議会 開催 (5/17, 8/18, 12/20, 1/26, 2/13) ○ わくわくの森保育園・石川認定こども園の交流 【参考資料 2～6】 (6/5, 7/13, 11/21, 11/22, 1/23, 2/28)
6月 2日	◎ 石川認定こども園 計画訪問 参観
6月 9日	◎ 石川小学校 入学後訪問及び保幼小連絡協議会 開催 (1年生の授業見学, スタートカリキュラムの確認, 入学後の児童の様子 等)
6月 23日	◎ 石川小学校 授業参観
8月	◎ 夏休みを利用した小学校職員による 保育園・こども園の保育参観 (8/2, 8/3)
10月 2日	◎ 石川小学校 計画訪問 参観
10月 31日	◎ 石川認定こども園 「こども園へようこそ (園公開日)」 参観
11月 28日	○ 石川小学校 生活科 「あきランド」 【参考資料 7】
1月 23日	○ オンライン質問会 (わくわくの森保育園と石川小学校を繋いで実施)
2月 21日	○ わくわくの森保育園 保育参観

(3) 実践報告

①「友達の輪を広げよう！」(幼児同士の“つながり”) … 今年度6回実施 【参考資料 2～6】

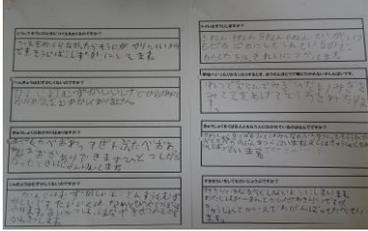
内容	<ul style="list-style-type: none"> ・お互いの園を行き来し, 好きな遊びやゲーム・集団遊び等で一緒に遊ぶ。 ・入学する小学校ごとに集まり, 同じ小学校に行く友達がいることを知る。
場所	わくわくの森保育園 (園庭・遊戯室) ・ 石川認定こども園 (園庭)
参加者	わくわくの森保育園 5歳児 ・ 石川認定こども園 5歳児
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びや活動を通して, 他の園の友達に親しみをもち, 関わりを深める。
参加した 子供の 様子	<ul style="list-style-type: none"> ・はじめはお互いに緊張した様子で, 自園にはない遊具や遊び場に興味を示す幼児が多く, 他園の友達と関わる姿はあまり見られなかった。 ・交流後, 「今度はいつ行けるの?」「今度はこども園に行きたい!」など, 交流を楽しみにする声が聞かれた。 ・交流を重ねるごとに, 「一緒に遊ぼう」「入れて」など, 他園の友達に声をかけ, 遊びを一緒に楽しむ姿が見られるようになった。 ・トイレの場所や, 遊ぶ時の約束事など, 他園の友達に自分の園のことを優しく教える姿が見られるようになった。 ・自園には同じ小学校に行く友達がいらない幼児も, 他園に同じ小学校に行く友達がいることを知り, 「よかった」と安心する様子が見られた。 ・「同じクラスになれるといいね!」と, 入学後の生活を楽しみにする様子が見られた。
	

考察	<ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の経験をもとに、早い段階から交流の機会を設けたことで、就学だけを意識した活動ではなく、外部の人との関わりを広げることにもつながった。 ・期間を空けずに交流することで、より親近感をもって活動できると感じた。 ・自園で取り組んでいなかった遊びや、同じ遊びでも違うやり方を知ることができ、幼児が自分の遊びに取り入れたり、職員も互いに保育方法を学んだりすることができた。 ・連絡を取り合い、気軽に交流の機会をつくることで、負担なく活動することができた。
----	---

②「小学校ってどんなところ？」(幼児と小学生・幼児と小学校生活の“つながり”)

内容	石川小学校 生活科 「オンライン質問会」 <ul style="list-style-type: none"> ・小学校と園をオンラインで繋ぎ、1年生が幼児に小学校の生活を紹介したり、幼児からの小学校に関する疑問に1年生が答えたりする。
日時	令和6年1月23日(火) 10:30~11:00
場所	わくわくの森保育園(遊戯室) ・ 石川小学校(第1学年教室)
参加者	わくわくの森保育園 5歳児 ・ 石川認定こども園 5歳児 ・ 石川小学校 1年生
ねらい	【園】 ・ 小学校に関する疑問を小学生に答えてもらい、小学校生活について知ったり、興味をもったりする。 【小学校】 ・ もうすぐ小学校に入学する5歳児に、自分の知っている小学校の生活について伝える。
参加した子供の様子	【幼児】 ・ 画面に映った小学生を見て、「おーい！」と手を振り、喜ぶ姿が見られた。 ・ 「給食が始まって10分間は話さずに食べます」という話に驚いていた。 【児童】 ・ 「画面に映ってないよ」など、周囲の友達が、発表している児童に気付いたことを教える姿があった。 ・ 幼児の突然の質問内容にも、多くの児童が「答えたい！」と手を挙げ、幼児が分かる言葉を選びながら、的確に答えていた。
考察	【幼児側】 ・ 自分が行く学校でなくても、“小学校を知る”という大きなくくりの中で小学生の話をつまんでいたためか、どの幼児も集中して聞いていた。 ・ 質問の答えを、教師から教えてもらうのではなく、実際に小学生に答えてもらったことで、子供たちの満足感や安心感につながったように思う。 ・ 卒園する寂しさや入学への不安から、教師に甘える姿や「行きたくない」という声が聞かれるようになっていたが、今回の交流で、小学校に行くことが楽しみになったり、一歩踏み出すきっかけになったりしたように思う。また、この交流を行う時期やタイミングが適していた。 【児童側】 ・ 「教えたい」という気持ちがとても強く、秋の交流行事で司会をした児童が今回の司会の友達にアドバイスをしたり、中休みや昼休みの時間を使って自主的に練習したりと、児童が自ら考えて準備をしている姿が見られ、成長につながった。
	

※「オンライン質問会」終了後の振り返り

小学校	保育園・認定こども園
<p>・オンライン質問会で答えきれなかった質問を教師がまとめようとする時、児童から「自分たちで答えたい」との意見が出る。そこで、生活科の授業の中で、質問の答えを考え、文字にして書いていく。その中で、“どう伝えたら分かりやすいか”“漢字は分からないからふりがなをつけよう”と幼児の立場になって考える姿が見られた。</p> <p>【参考資料 9】</p> 	<p>・「オンライン質問会」をするにあたり、小学生への質問を各園で出し合い、事前に小学校に送っていた。</p>   <p>・小学生が質問したことを全て答えてくれたことを伝えると、とても喜び、分からない字があると自分で調べたり、友達に教えてもらったりしながら、一生懸命に一文字ずつ読んでいた。</p> <p>・「私の質問があった！」と自分の質問に答えてもらったことをとても喜ぶ姿があった。</p>

4 成果と課題

(1) 成果

この研究が始まる前にコロナ禍となり、従来のような交流ができなくなっていたが、この二年間の研究を通して、交流の方法を考え直し、小学校との縦のつながりだけでなく、幼児同士の横のつながりができたことは、“同じ小学校に行く友達がいる”という安心感だけでなく、“人間関係をつくる”という子供たちの力を育てることにもつながった。また、職員がつながりをもつことで、円滑な交流や柔軟な活動が実践できるとともに、各施設を理解し合い、子供たちの育ちを共有できることの重要性を再認識した。

さらに、“子供たちに今どんな体験をさせたいか”という幼児・児童の体験や育ちをベースにした計画を作成することで、その年度の幼児・児童に合わせた活動に変えることができ、他の園や小学校でも活用できる計画にすることができた。【参考資料 1】

また、園の遊びや活動の一つとして交流活動を取り入れたり、小学校の生活科の授業を活用して取り組んだりすることで、生活の一部として無理なく取り組めることを実証できた。

(2) 課題

研究終了後も、今回の研究で作成した計画をもとに取組を継続し、その中で見られる幼児・児童の学びや育ちを“身につけたい資質・能力”や“幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿”などから確かめ、共有する機会をつくったり、その年度の幼児・児童に合った交流方法を考えたりしながら、各園・各校でカリキュラムの改善を図る必要がある。また、その取組が一部の職員だけでなく、小学校・保育園・認定こども園全体での共通理解となっていくように働きかけることが大切である。

また、今回の研究の取組が他の小学校区でも連携・接続のヒントとして活用され、幼児・児童・職員が様々なつながりを持ちながら、子供たちが安心して就学できる環境が整ってほしい。

【資料1】

「つながりを大事にした保幼小の連携と接続」 計画書
 -幼児・児童の体験や育ちをベースにした計画-

「令和4・5年度 石川小学校区 保幼小連携・接続に関する研究」にて作成

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3			
保育園 幼稚園 認定 こども園	<p>友達の輪を広げよう！</p> <p>☆お互いの園に行って活動する。</p> <p>☆好きな遊びや集団遊びを通して、仲良くなる。</p>					<p>同じ小学校に行く友達はあるかな？</p> <p>☆同じ小学校に行く友達で集まる。</p> <p>☆一緒に話したり遊んだりする。</p>			<p>小学校って どんなところ？</p> <p>☆就学に向けて気になることや心配なことを聞いてみる。</p>						
													<p>小学校の生活に慣れよう</p> <p>☆生活の流れや仕方を知る。</p> <p>☆学校がどんなところかを知る。 (学校探検等)</p> <p>☆新しい友達をつくる。</p>		
職員	<p>相互参観 (授業参観・計画訪問・公開日等)</p>					<p>小学校職員の 保育体験</p> <p>☆実際に保育に入り、幼児と関わったり、職員の仕事を体験したりする。</p>			<p>保幼職員の学校体験</p> <p>☆実際に学校で担任業務を見学・補助しながら、児童と関わったり、職員の仕事を体験したりする。</p>			<p>就学児の 情報交換</p> <p>☆園と学校で新1年生の情報を交換する。</p>			

その他		打合せ ① <ul style="list-style-type: none">・顔合わせ・年間計画・情報共有			打合せ ② <ul style="list-style-type: none">・活動の成果・現状の共有・今後の計画	打合せは、各施設で順番 に行うことで、その施設の 見学や参観もできる。	打合せ ③ <ul style="list-style-type: none">・活動の成果・現状の共有・今後の計画			打合せ ④ <ul style="list-style-type: none">・1年の成果 反省・来年度への 引継ぎ
-----	--	--	--	--	---	---	---	--	--	---

参 考 資 料

1. 【資料1】「つながりを大事にした保幼小の連携と接続」計画表

2. 令和5年度 交流事例

①わくわくの森保育園・石川認定こども園の交流

【資料2】① 令和5年 6月 5日 玉入れ遊び

【資料3】② 令和5年 7月13日 水遊び

【資料4】③ 令和5年11月21日 リレー遊び

【資料5】④ 令和5年11月22日 しっぽ取りゲーム・なべなべそこぬけ

【資料6】⑤ 令和6年 1月23日 鬼ごっこ（ケイドロ）

②【資料7】石川小学校 生活科 「あきランド」

③【資料8】職員交流で出た感想や意見

④【資料9】「オンライン質問会」小学生が書いた質問の答え

【資料2】

活動	わくわくの森保育園・石川認定こども園の交流①
日時	令和5年6月5日（月） 10:00～11:00
場所	わくわくの森保育園 園庭・遊戯室
参加者	わくわくの森保育園 5歳児 ・ 石川認定こども園 5歳児
ねらい	・他園の同じ年齢の友達を知り，親しみをもつ。
内容	<p>○園庭で好きな遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・遊具，砂場，ボール遊び，シャボン玉 等 それぞれが好きな遊びを選んで遊ぶ。  <p>○遊戯室で玉入れ遊びを楽しむ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園とこども園で勝負をした後，両園の幼児が混ざってチームを作り，勝負をする。 
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・研究一年目である昨年度に，当時の5歳児が交流していたため，子供たちもそれぞれの園のことは知っており，交流する際に戸惑う様子にはなかった。 ・はじめは緊張した様子だったが，好きな遊びを通して，子供たち同士で少しずつ関わる姿が見られるようになった。初めてだったため，無理に交流させようと意識せずに，和やかな雰囲気の中で自由に遊ぶ時間を十分設けたことがよかったのではないかと。 ・後半は，“勝つ”という同じ目的に向かって活動したことで，お互いの距離を近づけることができたように思う。 

【資料3】

活動	わくわくの森保育園・石川認定こども園の交流②
日時	令和5年7月13日(木) 10:00~11:00
場所	石川認定こども園 園庭
参加者	わくわくの森保育園 5歳児 ・ 石川認定こども園 5歳児
ねらい	・夏ならではの遊びを通して、他園の友達と関わりをもつ。
内容	<p>○園庭で水遊びをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・簡易プールを出して、みんなで順番に入って遊ぶ。 ・水鉄砲で的当てをしたり、ミストシャワーを浴びたりして楽しむ。  <p>○水鉄砲で「的当てゲーム」をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育園とこども園で勝負をする。 
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・「また会えたね!」「覚えてる?」などと再会を喜ぶ姿が多く見られた。 ・猛暑のため、一度延期して日程を再調整したが、好きな遊びをするだけでなく、水遊びという夏ならではの遊びを取り入れたことで、いつもと違う遊びで楽しむことができてよかった。 ・わくわくの森保育園にはプールがないため、こども園でプールに入ることができ、貴重な体験となった。 ・整列の仕方や話の聞き方など、他園の友達の姿を見て、真似をしたり負けじと行動したりする場面があり、同年齢で刺激し合いながら活動している様子が垣間見えた。 

【資料 4】

活動	わくわくの森保育園・石川認定こども園の交流③
日時	令和5年11月21日(火) 10:00~11:00
場所	石川認定こども園 園庭
参加者	わくわくの森保育園 5歳児 ・ 石川認定こども園 5歳児
ねらい	・好きな遊びやリレー遊びなどを通して、体を思いきり動かしながら、関わりを深める。
内容	<p>○園庭で好きな遊びをする。</p> <p>・すべり台、ブランコ、鉄棒、ジャングルジム、三輪車 等好きな遊びを選んで遊ぶ。</p>  <p>○リレー遊びをする。</p>  <p>○入学する小学校ごとに集まり、一緒におやつを食べる。</p> 
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・こども園が夏休みになったり、2学期は行事が多かったりして、なかなか交流ができず期間が空いてしまったため、好きな遊びの時は、同じ遊びでも各園ごとに分かれて遊ぶなど、ややぎこちなさがあった。遊ぶうちに距離が次第に縮まり、三輪車と一緒に乗るなど、少しずつ関わる姿が見られるようになった。 ・運動会後だったため、リレー遊びを取り入れた。各園で取り組んでいた遊びなので、すぐに取り組むことができ、競うことを楽しんでいた。 ・就学時健診後だったことから、同じ小学校に行く友達で集まる機会を設けた。「同じ小学校に行くんだね!」と会話を交わしながら、喜ぶ姿が見られ、さらに仲良くなった様子だった。

【資料 5】

活動	わくわくの森保育園・石川認定こども園の交流④
日時	令和5年11月22日(水) 9:30~10:15
場所	わくわくの森保育園 園庭
参加者	わくわくの森保育園 5歳児 ・ 石川認定こども園 全園児
ねらい	・連日の交流を通して、遊びを楽しみながら、さらに関わりを深める。
内容	<p>○5歳児全員で「しっぽ取りゲーム」をする。</p>  <p>○「なべなべそこぬけ」をする。</p> <p>・同じ小学校に行く友達と一緒にいる。</p>  <p>・5歳児全員で一緒に行く。</p>  <p>※石川認定こども園の3歳児と4歳児は、園庭で好きな遊びを楽しむ。</p>
考察	<p>・こども園の西部図書館への園外保育日に合わせて、通り道にある、わくわくの森保育園で、関わる時間がもてないかを相談し、短時間ではあったが、一緒に遊ぶことができた。負担なく交流できるということを実践することができた。</p> <p>・2日続けての交流だったため、子供たちの記憶にもしっかりと残っていて、「また会えたね!」と、より親近感もてたように思う。また、同じ小学校に行く友達と一緒にいる遊びを取り入れたことで、さらに親しみがもてた様子であった。</p> <p>・今回はこども園の3・4歳児も含めた園児全員で、わくわくの森保育園に行くことができたこともよかった。</p>

【資料6】

活動	わくわくの森保育園・石川認定こども園の交流⑤
日時	令和6年1月23日(火) 9:30~10:15
場所	わくわくの森保育園 園庭
参加者	わくわくの森保育園 5歳児 ・ 石川認定こども園 5歳児
ねらい	・オンライン質問会の前に、みんなで一緒に遊ぶことで、関わりを深める。
内容	<p>○園庭で好きな遊びをする。</p> <p>○5歳児全員で「鬼ごっこ(ケイドロ)」をする。</p>  <p>○終了後、室内で「オンライン質問会」に参加する。</p>
考察	<ul style="list-style-type: none"> ・冬休みなどがあり、前回の交流から期間が空いてしまったが、以前のようなぎこちなさはなく、声をかけ合ったり、すぐに一緒に遊んだりする姿が見られた。 ・好きな遊びでは、鬼ごっこやしっぽ取りゲームなど、ルールのある遊びで遊ぶ幼児が多かった。他園の友達と「入れて」「鬼は何人にする？」などのやりとりもスムーズに行うことができ、交流の積み重ねの成果を感じた。 ・この後に行った「オンライン質問会」は、事前に遊んだことで和やかな雰囲気を進めることができた。

【資料 7】

内容	石川小学校 生活科 「あきランド」 ・秋の自然物を使って、小学生が考えた遊びに5歳児を招待して一緒に楽しむ。
日時	令和5年11月28日(火) 10:00～11:30
場所	石川小学校 体育館
参加者	わくわくの森保育園 5歳児 ・ 石川認定こども園 5歳児 ・ 石川小学校 1年生 他 近隣の保育園・幼稚園2園 5歳児
ねらい	<p>【園】 ・秋の自然物への興味や関心をもったり、小学生に親しみや憧れを感じたりする。</p> <p>【小学校】 ・秋の自然物を題材としたコーナーを通して、友達や5歳児と関わることにより、その楽しさが分かり、進んで交流することができる。</p>
参加した 子供の 様子	<p>【幼児】 ・1年生が大勢の人の前で、司会をしたり、言葉を話したりしている姿を見て、「小学生はすごいな」と憧れのまなざしで見ている。</p> <p>・終了後、「来年は私たちが1年生になるから、今度はやる番だね!」と、1年生になることを楽しみにしている様子だった。</p>  <p>【児童】 ・「自分の幼稚園だ」「去年やったことがある」ととても楽しみに準備を進めていた。</p> <p>・話すことや友達との関わりが苦手な1年生男児が、射的のコーナーの「リーダーになりたい」と立候補する。活動に取り組む中で、作り方を友達に教える姿が見られるようになり、当日も5歳児に説明が伝わらずに困っている場面で、「こう言えばいいと思う」と自分の考えを友達に伝えることができた。あきランド終了後には、「頑張れた」と自信になった様子だった。</p> 
考察	<p>【幼児側】 ・実際に小学校に行き、直接小学生と関わったり、施設を見たりすることができたことがよかった。</p> <p>【児童側】 ・1年生は小学校の中では、上級生に教わる立場となることが多いが、今回は教える立場となり、5歳児にうまく伝わらない場面において、互いに混乱する様子も見られたが、よい経験になった。</p> <p>・5歳児にやり方を説明する時、5歳児が読めるようによみがなを書いたり、分かりやすい言葉に置き換えて説明したりして、相手の立場になって考える力をつけることができた。</p>

【資料 8】

職員交流で出た感想や意見

○石川小学校 入学後訪問及び保幼小連絡協議会

- ・1年生の先生の話し方が丁寧で参考になった。
- ・園では長い時間座ることがあまりなかったので、しっかり着席して取り組んでいる姿に成長を感じた。

保幼小職員



- ・授業を見ていただき感想をもらうことで、その後の学習に生かすことができた。



小学校職員

○石川認定こども園の参観

- ・お店屋さんごっこやお化け屋敷など、子供たちがやりたいことを実現できるように手伝いをする先生方の接し方や声かけの仕方が印象的だった。
- ・子供主体の活動になっている。教師と子供たちとのやりとりの中で、教師の問いかけに対して子供たちが自分の意見をきちんと発していた。また、それに対して教師がさりげなくアドバイスをしたり、どうしたらよいかを子供たちに考えさせたりして答えを導き出していた。



保育園職員



○石川小学校の参観



保幼小職員

- ・国語の授業で「大きなかぶ」の劇をしていた。園の発表会に似た活動で、つながりを感じた。その中で、子供たちは主体的に動き、子供同士で考えながら活動していて、とても生き生きしていた。
- ・一人一人の個人差が大きい中で、同じ授業を進めていく大変さを感じ、先生方はすごいなと感じた。

○夏休みを利用した小学校職員による保育園・こども園の参観

- ・保育園で「ハンカチ落とし」を参観した。5歳児はルールをしっかり理解して遊んでいる姿に感心した。3歳児も保育士の声かけや援助があれば成立すると聞いて驚いた。現在の小学3年生くらいまではコロナ禍だったこともあり、集団遊びの経験が乏しい児童が多いので、集団遊びの経験をして入学してくれることはとてもありがたいと感じた。
- ・こども園で水遊びを参観した。ただ自由に遊んでいるだけに見えるが、遊びの中でねらいをもって取り組んだり、教師が意図的に関わったりする場面があることが分かり、見方が変わった。
- ・1つの活動をすぐに終わらせるのではなく、1日1日試行錯誤しながら時間をかけて楽しんでいることが分かった。



小学校職員



○職員交流全般を通して感じたこと

- ・保育や授業があるためなかなか難しいが、参観した日に少しの時間でもいいので、話し合いの場がもてると、保育や教育の意図・ねらいを共有したり、感想や疑問がその場で聞けたりできると思った。
- ・「わくわくの森の先生だ!」「小学校の先生だ!」「こども園の先生だ!」と子供たちが嬉しそうに声をかけてくれることや覚えてくれていることが嬉しかった。交流や取組の成果を感じる。



